彙 報

2005年(平成17年)1月～2005年(平成17年)12月

研究状況

I 班 研究

人文学研究部

日仏文化交渉の研究

班長 宇佐美齊

2002年4月から4年間の予定で実施されている共同研究である。日本人にとってのフランス文化、フランス人にとっての日本文化、このふたつを問うことから始めて、具体的なヒトとモノの交流を重視しながら考察をすすめている。そのうえで日仏両文化の相互的な交渉がもたらした豊かな創造性とその問題点とを浮き彫りにするのが主なねらいである。時代区分としては、フランスでいえば第二帝政と第三共和制の時代、日本でいえば幕末維新期から昭和10年代あたりまでを想定している。フランスの文学や諸芸術を対象とする研究者のみならず、日欧比較美術史、日本文化史、比較文明史などを専門とする研究者にも加わっていただいている。また正規の班員としてではないが、必要に応じて海外からも複数の研究者の協力を得ている。2005年4月からは、成果報告書の執筆と編集作業を重ねており、近く京都大学学術出版会から『日仏近代の交感—文学・美術・音楽—』と題して刊行の予定である。

班員 大浦康介 岡田暁生 高木博志 高階絵里加 森本淳生 横山俊夫(以上所内) 吉田城(文学研究科) 松島征(総合人間学部) 柏木隆雄 北村卓 内藤高(以上大阪大) 小山俊輔 三野博司

(以上奈良女大) 柏木加代子(京都市芸大) 小西嘉幸(大阪市大) 丹治恆次郎(関学大名誉教授) ピエール・ドゥヴォー(甲南女大) アンヌ・ゴノン(同志社大) ジャック・ジョリー(英知大) 近藤秀樹(大阪教育大・非常勤講師) 阪村圭英子(京都市芸大・非常勤講師) 鶴飼敦子(京都大人間環境学研究科博士後期課程) 袴田麻祐子(大阪大文学研究科博士後期過程) 佐野仁美(神戸大総合人間科学研究科博士後期過程) [海外協力者]: イヴ=マリ・アリュー(トゥールーズ・ルミリエ大学) セシル・サカイ(パリ第7大学)

1月24日	高島北海とフランス	鶴飼 敦子
	ドイツ音楽からの脱出?—戦前日本におけるフランス音楽受容の幾つかのモード—	岡田 暁生
2月14日	蜻蛉集における和歌の仏訳をめぐる	吉川 順子
	フランス人エマニュエル・トロンコワと明治末期の洋画	クリストフ・マルケ(ゲスト)
2月28日	日本におけるフランス印象派音楽の受容について	佐野 仁美
	憧れはフランス、花のパリ	袴田麻祐子
3月14日	『告白』の翻訳と日本近代の自伝文学—藤村の場合—	小西 嘉幸
4月18日	原稿検討会	全員
5月9日	原稿検討会	全員
6月23日	原稿検討会	全員
6月6日	原稿検討会	全員
6月20日	原稿検討会	全員

7月11日	原稿検討会	全員	上 総合研究大学院大) 西江清高(南山大文) 寺前直人 堂山栄次郎 福永伸哉(以上、大阪大文) 橋本英将(元興寺文化財研究所) 深沢芳樹(奈良文化財研究所) 松木武彦(岡山大文) 菱田哲郎 渡辺信一郎(以上、京都府立大文) 森下章司(大手前大文)。
9月12日	原稿検討会	全員	
10月17日	編集打ち合わせ	宇佐美・大浦	
11月14日	編集打ち合わせ	宇佐美・高階	
12月12日	編集打ち合わせ	宇佐美・岡田	

フェティシズム研究の射程 班長 田中雅一

本共同研究班は、通算第56回をもって終了することになった。この研究会の成果は近日中に複数巻出版予定である。フェティシズム研究はまだ十分に議論を尽くしたとは言えないが、モノと人間との関係を様々な角度から論じる場を提供することができたと思う。

班員 大浦康介 菊地暁 小牧幸代 高木博志 竹沢泰子 田中祐理子 田辺明生(以上所内) 足立明(AA研究科) 速水洋子(東南アジアセンター) 松田素二(文学研究科) 宇城輝人(福井県立大) 岡田浩樹 細谷広美(以上神戸大学) 春日直樹(大阪大学) 窪田幸子(広島大学) 斎藤光(京都精華大学) 佐伯順子(同志社大学) 佐藤知久(京都文教大) 田村公江(龍谷大学) 中谷文美(岡山大学) 箭内匡(天理大学) 岩谷彩子(学振特別研究員) 金谷美和(日文研修員) 川村清志(大阪外大非常勤) 中谷純江(民博研修員) 藤本純子(大阪大学大学院文学研究科) 小池郁子 宮西香穂里 李雯文(以上京都大学大学院人間・環境学研究科)

3月2日 歴史を具体化するということについて
三枝憲太郎
(国立民族学博物館・外来研究員)
山と神を盗られたクラヴァ
内山田 康(筑波大学大学院・教授)

国家形成の比較研究 班長 前川和也

班員 岡村秀典 小南一郎 田辺明生 藤井律之 藤井正人 ラブチェフ・セルゲイ(以上、所内) 石村智(京大理) 伊藤淳史 下垣仁志 吉井秀夫(以上、京大文) 宇野隆夫(国際日本文化研究センター) 角谷英則(津山工業高等専門学校) 河野一隆(九州国立博物館) 桑原久男(天理大文) 関雄二(国立民族学博物館) 佐藤吉文 中谷正和(以

個別報告、討論はすでに終了しており、研究報告書出版のための諸作業が行われた。なお報告書『国家形成の比較研究』(前川和也・岡村秀典編)は、計18の論考を得て2005年5月に学生社より刊行された。

身体近代 班長 菊地 暁

「身体」を手がかりに異分野間コミュニケーションを少しでも風通しの良いものにすること、そして、そのことを通じて制度疲労の蓄積が指摘されて久しい「共同研究」なる営為のあり方を再想像すること、それが本研究のねらいである。

本年度は、昨年度の成果に基づき『身体論のすすめ』[丸善]を刊行した。また、昨年度と同様、全学共通教育課目のリレー講義を開催、班員およびゲストスピーカーの協力を得て身体をめぐる概念や方法の対象化をさらに多角的に試みた。

班員 李昇燁 王寺賢太 大浦康介 岡田暁生 加藤和人 久保昭博 倉島哲 小牧幸代 坂本優一郎 佐野誠子 高井たかね 高木博志 高階絵里加 竹沢泰子 田中祐理子 谷川穰 藤原辰史 守岡知彦 森本淳生

- 4月7日 大阪歴史博物館「阪神タイガース展」見学
- 4月14日 技能と身体—僕は、昔、皿洗いだった— 菊地
- 4月21日 均質化を強要される身体—僕は、昔、天才ピアノ少年だった?— 岡田
- 4月28日 怠ける身体—僕は、昔、体育会系だった— 藤原
- 5月12日 ナショナリズムと身体 中島 岳志(ゲスト)
- 5月19日 怠惰な身体・弱い身体—僕は、今日も怠惰だった— 近藤 秀樹(ゲスト)
- 5月26日 生命科学の身体観(生命観) 加藤

彙 報

- 6月2日 共北226教室 だんす 花沙(ゲスト) の記憶から身体を考える, その歴史記
 6月9日 社会の決定論を抜け出す技法—武術を 述に向けて— 谷川
 素材として— 倉島 12月15日 「対面的」をめぐって 大浦
 6月16日 変身の物語り 佐野 12月22日 マンガ読者の身体 表智之(ゲスト)
 6月23日 中国の坐具と坐法—床坐と椅子坐— 「身体」を手がかりに異分野間コミュニケーション
 高井 を少しでも風通しの良いものにすること, そして、
 6月24日 舌で読む聖書—ハンセン病回復者/キリス 那のこをを通じて制度疲労の蓄積が指摘されて久しい
 ン者・金地慶四郎講演会 「共同研究」なる営為のあり方を再想像すること、
 ビデオレター 金地慶四郎 それが本研究のねらいである。
 (ハンセン病回復者/キリスト者) 本年度は, 昨年度の成果に基づき『身体論のすすめ』[丸善]を刊行した。また, 昨年度と同様, 全
 人間回復の架け橋—ハンセン病の歴史 学共通教育課目のリレー講義を開催, 班員およびゲ
 に学ぶ 牧野 正直(邑久光明園長) ストスピーカーの協力を得て身体をめぐる概念や方
 ドキュメンタリー「どっこい生きてる 法の対象化をさらに多角的に試みた。
 で」 西村 聡
 (テレビ大阪プロデューサー)
 講演
 近藤 宏一(仮名:ハンセン病回復 領事館警察の研究 班長 水野直樹
 者/キリスト者) 近代日本が朝鮮・中国との間に結んだ条約に規定
 6月30日 頭でっかちと身体でっかち(或いは, された治外法権は, 朝鮮と中国(東北地方=満洲を
 これがホントの電波系) 含む)に日本の領事館警察なるものを生み出した。
 片山 杜秀(ゲスト) 朝鮮では1905年の保護条約まで, 中国東北地方で
 合評会:菊地暁編『身体論のすすめ』 中国では汪兆銘政権期に治外法権が撤廃されるまで,
 阪田真己子(ゲスト)・片山 各地の日本領事館に外務省から警察官が派遣され,
 10月6日 寄せて上げる冒険—あるいは身体のポ 様々な活動を行なった。在留日本人(後には台湾籍
 リティクス— 菊地 民・朝鮮人を含む)の保護・取り締まり, 情報活動,
 10月13日 美術と身体—日本で裸体を描く—高階 相手国・欧米外交機関との折衝などである。
 10月20日 人はいかにして〈客〉になるのか—浪 本研究は, 近代日本と東アジアとの関係を考える
 花節史にみる演者—客の関係性— 上で重要な領事館警察の機構や活動, 領事館警察が
 真鍋 昌賢(ゲスト) 把握・認識した中国・台湾・朝鮮の民族運動, 共産
 10月27日 吉本新喜劇にみる合意的身体のおすすめ 主義運動, 労働運動などの動向等々を, 日本史・朝
 面白から笑うのではない, 笑うべき 鮮史・台湾史・中国史の研究者による共同研究を通
 ところだから笑うのである— じて解明しようとするものである。また, 中国・朝
 阪田真己子(ゲスト) 鮮側史料, 欧米(特に英仏)諸国の史料などを利用
 11月10日 身体は夢, 夢の身体—ドニ・ディドロ 『グランベールの夢』をめぐって—
 『グランベールの夢』をめぐって— 王寺
 11月17日 戦時下「皇民化」政策と朝鮮人の身体 班員 高木博志 石川禎浩 村上衛 李昇燁(以
 李 上所内) 李俊植(外国人研究員, 延世大) 永井和
 12月1日 身体なきロボット (文学研究科) 浅野豊美(中京大) 梶居佳弘(立
 塩瀬 隆之(ゲスト) 命館大・非常勤) 桂川光正(大阪産業大) 近藤正
 12月8日 透明ランナー, 現る?—子どものころ 己(近畿大) 副島昭一(和歌山大) 宗田昌人(文

学研究科・院) 田中隆一(学術振興会特別研究員)
 廣岡浄進(大阪大・院) 藤永壮(大阪産業大) 松
 田利彦(日教研) 李ジョンミン(中央大・非常勤)
 (海外協力者) エリック・エッセルストロム(カリ
 フォルニア大学サンタ・バーバラ校博士候補) 辛
 珠柏(ソウル大) 鄭根植(ソウル大)

1月19日 ワシントン条約体制下の青島における
 領事館警察について—1922年膠州湾
 租借地返還交渉を中心に—

長沢 一恵

2月16日 上海領事館警察と工部局警察

副島 昭一

廈門領事館警察分所設置問題について
 村上 衛

3月2日 戦時上海と上海領事館警察について
 孫 安石(ゲスト)

外務省警察による在留邦人取り締り
 桂川 光正

3月16日 初期領事官警察における風俗警察—日
 露戦争期までの朝鮮を中心に—

藤永 壮

共同研究のまとめについて

文明と言語

班長 横山俊夫

人間社会が安定し、しかもそれが文をなし明らか
 なる状態に赴くとき、言語が変容しつつはたす役割
 は大きい。その諸相を、さまざまな事例研究を通し
 て明らかにするとともに、現代の知の専門細分化に
 よる言語の流通力の衰えが社会にもたらしている閉
 塞状況に対して、その解決のための道を、班員の協
 同により模索、提言することをめざしている。

第4年度は、班員各自の専門分野からの報告を
 行ったほか、夏以降はこれまで輪読をつづけてきた
 『難波鉦』の現代の共通語および上方語への翻訳作
 業を集中的に行った。成果は、共同研究拾遺物とし
 て平成17年度末に『難波鉦—梅之部抄』と題し公
 刊する。17世紀大坂の、或る種の閉鎖空間におい
 て言語が紡ぎ出していた人間関係の綾が照らし出さ
 れるだろう。なお、班員の一部は、当研究班の成果
 を「京都文化会議2005」や「はんなり京都嶋臺塾」
 といった公開の催しに参画するかたちで活かした。

班員 宇佐美齊 岡田暁生 加藤和人 金文京
 倉島哲 齋藤智寛 武田時昌 田中祐理子 Susan
 B. Hanley Kozo Yamamura (以上所内) 山極
 壽一(理学研究科)(以上学内) 荒牧典俊(大谷大
 学) 遠藤彰(立命館大学) 古勝隆一(千葉大学)
 後藤静夫(京都市立芸術大学) 小林博行(中部大
 学) 斎藤清明(総合地球環境学研究所) 廣瀬千紗
 子(同志社女子大学) 深澤一幸(大阪大学) 細田
 明宏(別府大学) 森本淳生(一橋大学) 山岸 敦
 (JT生命誌研究館) 遊磨正秀(龍谷大学)
 Sergey Lapteff(国際日本文化研究センター)〈所
 属は2005年12月時点〉

1月15日 西鶴の言語力 廣瀬
 『難波鉦』初冠 その三 倉島

1月22日 北京の今関天彭氏 深澤
 『難波鉦』初冠 その四 倉島

2月5日 『語りえぬもの』を語るシステム論の
 功罪 (ゲスト) 塩瀬隆之

『難波鉦』飛鳥川 廣瀬

2月19日 民家をつくる環境と文化

Susan B. Hanley

『難波鉦』初冠 その五 倉島

2月26日 からくり人形「峰工房」見学

(ゲスト) 峰崎 十五

3月5日 感染を語ることば 田中
 『難波鉦』雪中驚 廣瀬

5月7日 人体と言語 (ゲスト) 塩田浩平

5月21日 人形浄瑠璃の大道具 後藤

『難波鉦』儒医 岡田

6月11日 東アジアの異類論争文学とその背景

金

『難波鉦』数目金 武田

6月18日 所有と分配の起源 山極

『難波鉦』出家 森本

7月28日 「第2回 鉦叩会」—『難波鉦』現代
 語訳稿作成—

後藤、廣瀬、倉島、横山他

9月11日 「第3回 鉦叩会」—『難波鉦』現代
 語訳稿作成— 森本、金、深澤他

9月24日 『難波鉦』「熊谷笠」定稿 田中

『難波鉦』「道芝」定稿 倉島

- 10月15日 『難波鉦』『道芝』定稿 倉島 坂野徹(日本大学) 坂本ひろ子(一橋大学) 崎山
『難波鉦』『乱碁・飛鳥川・雪中鷺』定稿 政毅(立命館大学) スチュアート・ヘンリ(昭和
稿 廣瀬 女子大学) 富山一郎(大阪大学) 渡辺公三(立命
館大学)
- 11月5日 『難波鉦』『藤袴』定稿 遠藤
『難波鉦』『身代』定稿 金(代読) 1月7日 ベネズエラ, チャベス政権下の民族運
動と人種主義 石橋
- 11月19日 『難波鉦』『十五夜』定稿 後藤
『難波鉦』『身代』定稿(続) 1月8日 ブロカからデュルケームへ竹沢尚一郎
(ゲスト, 民博)
- 12月17日 『難波鉦』『手鏡』定稿 荒牧 コメンテーター 渡辺
『難波鉦一梅之部抄』製本打合せ 全員 黒人アスリート表象と対抗戦略の可能
性—J・ホバーマンの歴史学的アプ
ローチを事例に— 川島
- 12月24日 『難波鉦』『朧月』定稿 加藤
『難波鉦一梅之部抄』製本打合せ(続) 全員 3月4日 サラ・フォーブス・ボネッタは何を
〈語った〉のか?—大英帝国のなかの
人種再考— 井野 瀬
雑誌記事から見る外人男性とのつきあ
い方 国際結婚との関係を探る 田中
3月5日 ヒトゲノム・遺伝子研究にとっての人
種・民族問題—最近の話題から 加藤
3月25日 (国際交流基金と共催)
1) Predicament of Place: Why Dis-
tinctions between Asian and Asian
Americans Matter
Young Soon Min
(カリフォルニア大学Irvine校)
2) Certain Latitudes: Diasporic
Perspectives Is Yellow White or
Black: Locating Asian Americans
Paul Y. Watanabe
(マサチューセッツ大学ボストン校)
- 5月27日 加治屋健司「大浦信行の《遠近を抱え
て》はいかにして90年代的言説を準
備したか」の紹介と研究動向 北原
多民族国家「満洲国」をめぐる民族言
説と国民国家言説—日本人による人種
表象を中心として— 蘭
- 5月28日 辞(事)典類にみる〈人種〉の定義変
遷と若干の考察 スチュアート
山田詠美について思うことなど 大浦
- 人種の表象と表現をめぐる学際的研究**
班長 竹沢泰子
2003年4月から始まった本研究会は、その2年
前から進めてきた科学研究費基盤B(2)「人種の概
念と実在性をめぐる学際的基础研究」(代表 竹沢
泰子)によるとくに人種概念をめぐる共同研究を
土台としている。しかし人種が社会的構築物である
ことが露呈されても、なぜ人種が、社会諸制度から
医療、教育、嗜好・美意識にいたるまで、リアリ
ティをもつかは、概念とあわせて考えなければなら
ない問題である。そこで本研究会では、表象と表現
をキーワードに、文化人類学、歴史学、文学、美学、
自然人類学、生命科学などの多領域にまたがる班員
から構成し、学際的な研究を進めている。表象のみ
ならず表現を含めるのは、主体としての当事者の能
動的側面を看過しないためである。なお2005年は
班長が3月末から長期海外研修となったため、5月
の一時帰国時に開催したものも含めて、7回のみ
の開催となった。
班員 石川禎浩 大浦康介 加藤和人 小関隆
小牧幸代 高木博志 高階絵里加 田中雅一 田辺
明生 藤原辰史(以上所内) 蘭信三(留学生セン
ター) 片山一道(理学研究科) 松田素二(文学研
究科) 石橋純(東京大学) 井野瀬久美恵(甲南大
学) 川島浩平(武蔵大学) 北原恵(甲南大学)
貴堂嘉之(一橋大学) 栗本英世(大阪大学) 黒川
みどり(静岡大学) 斎藤成也(国立遺伝研究所)

1960年代の研究

班長 富永茂樹

1960年代は、われわれの生活と意識がそれまでのものから大きく変化した時代であった。しかもその変化は世界的な規模で生じたこと、また生活のさまざまな領域において認められること、さらに日本についていうなら、明治維新や第二次世界大戦後の変化を上回るものであるかもしれないことさえ予想される、そのような変化である。自身がそのいくぶんかを生きた時代、また現在からほど遠くない時代について何ごとかを語り、結論を突き出すのは決して容易なことではない。だが1960年代をつうじての世界の変貌が、今われわれのいる世界に直接につながっているかぎりにおいて、その腑分けを行うことはわれわれ自身を知るうえでぜひとも必要な作業でもある。この共同研究は、以上のような認識に立って、政治史や経済史もさることながら、日常生活から学術や芸術にまでいたる多様な側面での世界の変化に注目して、また1940年代生まれの、いわば60年代を生きた世代から、70年代生まれの、つまりこの時代については語られた記憶しかもたない世代までが集まって進めることに努めたものであり、2005年3月に終了した。現在報告論集刊行のための作業を進めている。

班員 籠谷直人 加藤和人 田中祐理子 藤原辰史 山室信一(以上所内) 伊從勉 大澤真幸 加藤幹郎 大黒弘慈(以上人間・環境学研究科) 遠藤徹(同志社大) 葛山泰央(筑波大) 川崎博史(ホロニク) 北垣徹(西南学院大) 齋藤光(京都精華大) 白鳥義彦(神戸大) 鳴海邦碩(大阪大) 成実弘至(京都造形芸術大) 半田章二 疋田正博(以上シー・ディー・アイ) 前川真行(大阪府大) 松本日之春(京都市芸術大) 光永雅明(神戸市外語大) 森口邦彦(社団法人日本工芸会)

- 1月21日 研究報告書作成に向けて 全員
- 2月4日 ドラッグ・カルチャー '60—クロール
プロマジンからLSDまで 北垣
- 2月18日 宇野弘蔵再論—贗と純粹② 大黒
- 3月11日 悪魔が語り手になる頃—60年代の文学と宗教の一側面
フランソワ・ラショウ(ゲスト)
- 3月18日 1960年代、古典的ハリウッド映画期

からポスト古典期への移行期—ヒッチ
コック映画とヌーヴェル・ヴァーグに
見られる視覚的媒体における外見と内
実の乖離 加藤 幹郎

アジア・ネットワークの研究

班長 籠谷直人

本共同研究は、歴史的なアジア地域秩序分析をめざす。2年目の班研究。アジア地域秩序を規定した帝国・帝国主義・覇権の時代に即して、商人のネットワーク機能の変遷を考察する。メンバーは、17世紀から20世紀を対象とした歴史家で構成される。中国史、インド史、東南アジア史、日本史、アメリカ史の専門家が一同に会する共同研究を組織した。境界線に囲まれた主家国家間のシステムとは異なる、経済的な発展経路の存在を歴史的なアジアに探りたい。主権国家の境界線によってその伸張が制約されながらも、帝国の下で育まれたアジア商人のネットワークが、今日も市場秩序を提供しているとの視点にもとづいて、アジア・ネットワークを検討・考察し、主権国家間システムの相対化をめざす。

班員 岩井茂樹 村上衛(以上所内) 小野沢透(文学研究科) 井口治夫(名古屋大環境学研究科) 上田貴子(日本学術振興会特別研究員) 大石高志(神戸市立外国語大国際関係) 岡本隆司(京都府立大・文) 加藤雄三(総合地球環境学研究所) 陳天璽(国立民族学博物館) 陳來幸(兵庫県立大・経) 福岡正章(同志社大・経) 水野祥子(大阪大・文) 宮田敏之(天理大・国際文化) 藪下信幸(近畿大・経営) 脇村孝平(大阪市立大・経)

- 1月21日 華商ネットワークとアイデンティティ—そのイメージと実体—
陳 天璽(国立民族学博物館)
- 2月4日 戦後アジア国際政治の中の日本—海域
東南アジアへの関与を中心に—
宮城 大蔵(北海道大学法学部)
- 4月15日 「帝国とネットワーク」研究の方向性
について：研究協働を通じた展望
籠谷 直人
- 5月13日 印僑商人論の研究動向
大石 高志(神戸市外国語大学)
- 5月27日 18世紀末～19世紀前半のベンガルに

- おける塩市場の形成と変容—ベンガル
「植民地化」に関する一考察
神田 さやこ (慶応義塾大学)
- 6月10日 十八世紀後半のベンガルにおけるイギリス東インド会社の貨幣政策
谷口 謙次
(大阪市大大学院経済学研究科・D3)
植民地の環境保護主義—英領インドにおける乾燥化理論の展開
水野 祥子 (大阪大学)
- 6月12日 2005年度大阪歴史科学協議会・大会
報告(関西大学・千里山キャンパス
第一学舎(法・文学部)第三会議室)
19世紀の東アジアにおける主権国家
形成と帝国主義 籠谷 直人
19世紀のアジアにおける銀流通
西村 雄志 (松山大学)
- 6月24日 帝国と介入—フレデリック・リース＝
ロスの国際金融政策
石田 憲 (千葉大学)
- 7月3日 国際ワークショップ：“The United
States and Globalization: Power,
Empire, and Business Networks”
籠谷 直人
Thomas W. Zeiler,
(Department of History,
The University of Colorado)
小野沢 透 (京都大学)
井口 治夫 (名古屋大学)
Marc Gallicchio,
(Department of History,
Villanova University)
- 7月29-30日 共同ワークショップ(遠藤乾グ
ループ+籠谷グループ)
(北海道大学法学部)
- 7月29日 課題：グローバル・ガバナンスの思想
世界社会論—高田保馬を手がかりに—
ベン・ミドルトン(フェリス女子大学)
A. ソルターの機能主義
城山 英明 (東京大学)
補完性の思想—グローバル・ガバナン
- スの秩序原理?
遠藤 乾 (北海道大学)
世界政治における宗教
池内 恵 (国立民族博物館)
- 7月30日 課題：戦後東アジアの帝国秩序
東アジアにおける帝国と帝国主義
籠谷 直人
戦前戦後の連続と断絶—東アジア帝国
秩序再論 松浦 正孝 (北海道大学)
インド海域と東アジア地域秩序
大石 高志 (神戸市立外国語大学)
上海・金融・銀本位制
城山 智子 (一橋大学)
パックスアメリカーナと戦後アジア通
貨秩序 田所 昌幸 (慶応義塾大学)
戦後日本外交と東南アジア国際秩序
宮城 大蔵 (北海道大学)
- 8月26日 シンポジウム：帝国とネットワーク—
アジア史における「長期の19世紀」
会場：大阪市立大学文化交流センター
(大阪駅前第2ビル6階)
近代日本からみた帝国とネットワーク
(問題提起1)
籠谷 直人 (京都大学助教授)
アジア史における『長期の19世紀』
(問題提起2)
脇村 孝平 (大阪市立大学)
19世紀前半のアジア交易圏
杉原 薫 (大阪大学)
イースタンバンク問題とイギリス帝国
主義 (1853年-1867年)—英領イン
ドと海峡植民地
川村 朋貴 (富山大学)
19世紀末、ビン南商人の転換
村上 衛 (横浜国立大学)
モーリシャスのコメ貿易・流通とイン
ド系ムスリム商人
大石 高志 (神戸市外国語大学)
コメント：岩井 茂樹 (京都大学)
- 9月16日 旧帝国研究の動向についてのメモ
籠谷 直人

人 文 学 報

- 10月7-8日 国際ワークショップ：Networks and Empires Indian Migrants/Merchants in East Asia and Beyond
 籠谷 直人
 大石 高志 (神戸市立外国語大学)
 脇村 孝平 (大阪市立大学)
 Lee Pui-tak 李培徳 (香港大学)
 Lin Man-hong 林紅滿 (中央研究院, 台湾)
 Choi Chi-cheung 蔡志祥 (香港科学技術大学)
 Siu-tong Kwok 郭少棠 (香港大学)
 村上 衛 (横浜国立大学)
 Wu Xiao an 吴小安 (北京大学)
 Rajeswari A. Brown (SOAS, London University, UK)
 神田さやこ (慶応義塾大学)
 Claude Markovits (SOAS, London University, UK)
 Liu Hong 劉宏 (National University of Singapore)
 陳 来幸 (兵庫県立大学)
 松浦 正孝 (北海道大学)
 Zhong Shumin 鐘淑敏 (中央研究院, 台湾)
 城山 智子 (一橋大学)
 Wong Siu-lun 黄紹倫 (香港大学)
- 10月9日 アジア太平洋戦争研究ワークショップ
 汎アジア主義における『インド要因』
 松浦 正孝 (北海道大学)
 日中紛争の『世界化』—中国の日中紛争解決構想と米英ソ参戦問題—
 鹿 錫俊 (島根県立大学)
 帝国と介入—フレデリック・リース=ロスの国際金融政策
 石田 憲 (千葉大学)
- 10月24日 バラダイムの帝国—アメリカ MBA プログラム 篠原 初枝 (早稲田大学)
- 11月11日 越境する社会空間：日本における中国系移住者の移動と定着をめぐる
 田嶋 淳子氏 (法政大学)
- 11月19日 ワークショップ：日本におけるマイノリティ・ビジネスの歴史的展開
 オーガナイザー：
 籠谷 直人 (京都大学)
 韓 載香 (東京大学)
 曳野 孝 (京都大学)
 マイノリティ・ビジネスの歴史的展開：国際比較に向けて
 曳野 孝 (京都大学)
 在日韓国・朝鮮人ビジネスの歴史的動態
 韓 載香 (東京大学)
 神戸における在日韓国・朝鮮人産業の発展
 高 龍秀 (甲南大学)
 華僑とネットワーク
 籠谷 直人 (京都大学)
 在日華僑華人ビジネスの歴史的動態
 陳 来幸 (兵庫県立大学)
- 12月9-11日 国際ワークショップ：疫病・環境・グローバルイゼーション」
 飯島 渉 (青山学院大学)
 脇村 孝平 (大阪市立大学)
 Mark Harrison (Wellcome Unit for the History of Medicine, Oxford, UK)
 Park Yunjae (Yonsei University, Korea)
 Robert Perrins (Acadia University, Canada)
 上田 信 (立教大学)
 Shi-yung Liu (Academia Sinica, Taiwan)
 V. R. Muraleedharan (Indian Institute of Technology Madras, India)
 Yawen Ku (Postdoctoral Fellow [2006～], Research Center for Humanities and Social Sciences, Academia Sinica, Taiwan)
 Ki Che Leung (Academia Sinica, Taiwan)

彙 報

遠藤 乾 (北海道大学)	2月7日	論文会誌①	全員
David Arnold	3月7日	論文会誌②	全員
(SOAS, University of London, UK)	3月13日	拡大研究会	
Kalinga Tudor Silva	4月4日	書評『空間のイギリス史』藤原 辰史	
(University of Peradeniya,	4月18日	書評『ナチス・ドイツの有機農業』	
Sri Lanka)			菊地 暁
城山 英明 (東京大学)	5月16日	会読 和辻『風土』	谷川 穰
後藤 春美 (千葉大学)	6月6日	会読 セルトー『日常実践のポイエティック』	中島 岳志

空間の再審—人文・社会科学の新基軸を求めて—

班長 山室信一

空間とは、時間とともに人間が自己と他者について認知していくための不可欠な枠組みであり、人間とその社会のありかたを追求すべき人文・社会科学においては、明確な概念規定に基づく体系化が要請されている。しかしながら、欧米近代の人文・社会諸科学においては、時間こそが基軸となっており、空間そのものを対象として捉えることに必ずしも成果を挙げてきたわけではない。しかも、グローバル化の進行の中で空間の把握は時間や速度によって置き換えられつつある。しかし、グローバル化によって生活様式の平準化が進めば進むほど、機構や生態などの地理的条件、都市や建築などの空間形式の差異のありかたこそが、人間観・社会観そして世界認識のありかたをますます規定していく可能性もまた否定できない。

この共同研究では、自然環境と人間活動の関係や、生活空間としての都市・建築などの形成のされかた、そしてさらにそれが世界認識としていかに把握されてきたか、といった学知と実践知そのものを再審に付し、そこから新たな人文・社会科学の基軸を析出していくことをめざしている。

本年度は、昨年度に引き続き基本的文献の会読を進めるとともに、モンゴルでのフィールドワークを実施することによって、学知と実践知との関係について探求した。

班員 菊地暁 坂本優一郎 谷川穰 藤原辰史 (以上所内) 早瀬晋三 (大阪市大) 中島岳志 (学術振興会特別研究員)

1月17日 近世から近代にかけての秩序認識のありかた 坂本優一郎

6月20日	『身体論のすすめ』のかたわらで空間論を素描する	菊地 暁
7月4日	会読 柳田「都市と空間」	藤原 辰史
8月	フィールドワーク(モンゴル)	
9月15日	解題文献検討会	全員
10月17日	会読 戸坂「空間について」	全員
11月7日	会読 ルフェーブル『空間の生産』第1章	坂本優一郎
11月21日	会読 ルフェーブル『空間の生産』第2章	坂本優一郎
12月5日	会読 ルフェーブル『空間の生産』第3章	藤原 辰史

フェティシズムの社会・文化的文脈

班長 田中雅一

フェティシズム研究の射程を受ける形で「フェティシズムの文化・社会的文脈」を発足した。これはモノに注目して行われたこれまでの研究会の反省にたって、その背景となる文化および社会のありかたに注目する研究会である。

班員 大浦康介 菊地暁 小牧幸代 高木博志 竹沢泰子 田中祐理子 田辺明生 (以上所内) 足立明 (AA 研究科) 速水洋子 (東南アジア研究所) 松田素二 (文学研究科) 宇城輝人 (福井県立大) 岡田浩樹 細谷広美 (以上神戸大学) 春日直樹 (大阪大学) 川村清志 (札幌大学) 窪田幸子 (広島大学) 斎藤光 (京都精華大学) 佐伯順子 (同志社大学) 佐藤知久 (京都文教大) 田村公江 (龍谷大学) 中谷文美 (岡山大学) 箭内匡 (東京大学) 岩谷彩子 (学振特別研究員) 金谷美和 (日文研研修員) 中谷純江 (民博研修員) 藤本純子 (大阪大)

学大学院文学研究科) 小池郁子 山本達也 宮西香穂里 李雯文 (以上京都大学大学院人間・環境学研究科)

- 6月6日 打ち合わせ
- 6月20日 覗き見の視覚文化：初期映画における露出症的構造の一考察
森村 麻紀 (日本学術振興会特別研究員)
- 7月25日 フェティシズムと「在る」こと：インドネシア・フローレス島における親密性とその変容
青木恵理子 (龍谷大学・教授)
- 10月17日 人体模倣を越えて：日本におけるダッチワイフの変遷を中心に 西村 大志 (広島国際大学人間環境学部・講師)
- 11月7日 Snipers of The Israel Defense Forces in the Al-Aqsa Intifada: Killing, Weapons and Soldiers' Bodies
Eyal Ben-Ari (京都大学人文科学研究所・客員教授)
- 11月21日 映画館と観客 加藤 幹郎 (京都大学人間環境学研究科・助教授)

虚構と擬制—総合的フィクション研究の試み

班長 大浦康介

本研究は、従来文学、哲学、論理学、法学などの分野で行われてきたフィクションの研究を相互に関係づけるとともに、美術や音楽、歴史学、人類学、自然科学などの諸学問における同種の概念の有効性を検討し、あわせて総合フィクション学 (General Fictology) とでも呼ぶべきディシプリンの構築をめざすものである。文学における虚構 (小説、演劇)、映画やテレビドラマ、種々のゲームや子供の「ごっこ」遊び、様相論理学があつかう可能世界、民法などでいう擬制、歴史記述の「うそ」、宗教儀礼の仮構性、自然科学の真理探求における作業仮説やメタファー—それらの共通点と違いはなにか、またそれらを貫くフィクション概念の定立は可能か。4年の期間内に、先行研究の整理と新たな事例研究にもとづいて、こうした問いへの答えを探るとともに、総合フィクション学がひとつの新たな知として、

〈制度〉や〈学問〉の動態的把握や〈合意形成〉のプロセス、芸術の心理・社会的効用などについてなにを教えるかを明らかにしたい。

まずは問題意識を共有するため、当面は基本文献の把握に努めたいと考えている。初年度の今年は、自由発表やゲスト講演も交えつつ、前期におもに言語哲学や文学理論の分野でのフィクション論の最新成果を示す文献の、また後期はそのルーツともいべき古典的文献の紹介・読解を行なった。

- 4月18日 研究会趣旨説明と John R. Searle のフィクション理論の紹介 大浦 康介
- 5月9日 パヴェルの『虚構世界』を読む：「隔離主義」Segregationism 批判をめぐる 河田 学
- 5月23日 Marie-Laure Ryan, Possible Worlds, Artificial Intelligence, and Narrative Theory を読む 岩松 正洋
- 6月13日 フィクションとしての「少女」 園田 浩二
- 6月27日 中田秀夫監督『女優霊』を観る 石田 美紀
- 7月11日 古代ギリシアにおける「過去」の創出 庄司 大亮
- 10月31日 Photographie: fiction narration (「写真：虚構・物語」) Xavier Martel 奥泉 光(ゲスト)
- 11月12日
- 11月21日 ヒューム『人性論』を読む 王寺 賢太
- 12月5日 Hans Vaihinger, Die Philosophie des Als Ob を読む 岡田 暁生
- 12月19日 抗争するフィクション?: 4月10日の「神話」をめぐる 小関 隆

啓蒙の運命—系譜学の試み 班長 富永 茂樹

「啓蒙」は、18世紀ヨーロッパの思想的な一潮流を指示するのみならず、普遍的な価値を持った理念の担い手として、およそフランス革命以後の世界各国において追求され、あるいはしばしば批判を受けてきた概念でもあった。この後者の観点からすれば、「啓蒙」は、近代の社会が、その都度の自己の組織化・再組織化に際して「近代」自身を反省する際の

鍵概念であったと言える。「啓蒙」の批判と再考が、「ポストモダン」とも言われる今日、ヨーロッパ中心主義や近代の諸制度・諸学問分野に対する度重なる批判と、国民国家分立の世界システム・代議制民主主義、あるいは「市民社会」・「文化」・「教養」など、近代社会の理念と制度の動揺・衰退をうけて、再び思想史研究・人文学研究の重要な課題として浮上していることは、ハーバーマス、フーコー、デリダといった現代の哲学者たちによる「啓蒙」再考の試みによっても明らかであろう。

本研究では、「啓蒙」を、18世紀ヨーロッパの思想潮流を指示する時代概念と、近代社会の組織化・再組織化に際しての鍵概念とする二重の射程を持ったものとして位置づけた上で、西欧諸国のみならず、アジア・アメリカ・ロシアなどを含めた世界的な展望のもとに、思想史・社会学・文学・芸術学・科学史などの多分野の研究者を募り、およそフランス革命以後の世界における「啓蒙」の理念と実践の諸様態についての系譜学的かつ比較史的な研究を行う。19世紀以降の世界における「啓蒙」の理念と実践の諸様態について、包括的で統一的なヴィジョンをもった歴史叙述を提出すること、また、近代史において「啓蒙」が果たしてきた肯定的・否定的機能の偏差と恒常性を明らかにし、現在、われわれがなお「啓蒙」から受け継いでいるものは何か、あるいはまた「啓蒙」の何を・どのように受け継ぐことができるかを提起することが本研究の目的である。

班員 王寺賢太 岡田暁生 坂本優一郎 武田時昌 田中祐理子 藤原辰史 森本淳生（以上所内）
浅田彰（経済研究所） 大東祥孝 多賀茂 田邊玲子 立木康介（以上人間・環境学研究科） 増田真（文学研究科） 市田良彦（神戸大） 伊藤玄吾（京都女子大） 井上櫻子（京都大文学研究科博士課程） 上田和彦（関西学院大） 宇城輝人（福井県大） 遠藤徹（同志社大） 小田川大典（岡山大） 齊藤涉（大阪大） 崎山政毅（立命館大） 多賀健太郎（大阪大学研究員） 長尾伸一（名古屋大学） 前川真行（大阪府大） 松澤和宏（名古屋大） 松下洋（神戸大）

4月22日 共同研究を始めるにあたって 富永
5月13日 カッシーラー『啓蒙の哲学』とその周

	辺	王寺
5月20日	アザール『ヨーロッパ精神の危機』を読む	森本
6月3日	アザール『十八世紀ヨーロッパ思想』を読む	伊藤
6月17日	コゼレック『批判と危機』を読む	藤原
7月1日	ヴェントゥーリ『啓蒙のユートピアと改革』を読む	坂本
7月15日	スタロバンスキー『自由の創出』・『理性の標章』を読む	田中
9月16日	エリアス『文明化の過程』・『宮廷社会』を読む	葛山
9月30日	ポーコック『The Machiavellian Moment』を読む	前川
10月7日	ポーコック『Barbarism and Religion』を読む	ラショウ
10月21日	James Schmidt (ed), 『What is Enlightenment?』 Part I, II を読む	齊藤 涉
11月5日	James Schmidt (ed), 『What is Enlightenment?』 Part III を読む	小田川
11月11日	フュレ『フランス革命を考える』—革命の終焉をめぐる	北垣
11月26日	統治性、主体、政治—フーコー晩年のプロブレマティックをめぐる	市田
12月17日	公共圏の喧噪と〈外〉の沈黙—ハーバーマス『公共性の構造転換』と「啓蒙」	佐藤

王権と儀礼

班長 藤井正人

本共同研究（2005年4月-2009年3月）は、王権と儀礼との関係を古代インドの王権儀礼を中心に研究することを目的としている。ヴェーダ文献を基礎資料にしているが、インド学の諸分野のほか、歴史学、考古学、美術史、人類学などの複数の視点から資料を分析するとともに、さまざまな時代と地域における王権と儀礼に関わる問題を比較研究の対象としている。隔週に開いている研究会では、会読と報告会を組み合わせ、初年度は、会読を2回行なうごとに、報告会を1回行なっている。会読では、

ヴェーダ祭式文献の中から王即位式（ラージャスーヤ）に関する箇所を解説している。便宜上、新資料であるヴァドゥーラ・シュラウタースートラを中心に読み進めているが、すべての関連箇所を整理して、この儀礼に関する文献資料を集成することを目標にしている。報告会では、メンバーおよびゲストスピーカーが、「王権と儀礼」に関係するテーマで報告している。会読がある程度進んだ段階で、作成した資料を報告会で提示して、さまざまな角度から分析し検討することも予定している。

班員 梶原三恵子（非常勤講師・事務局） 岡村秀典 小牧幸代 田中雅一 田辺明生 船山徹（以上所内） 赤松明彦 Werner Knobl 徳永宗雄 横地優子（以上文学研究科） 天野恭子 井狩彌介（中部大学） 永ノ尾信悟（東京大） 榎本文雄（大阪大） 大島智靖 長田俊樹（総合地球環境学研究所） 後藤敏文（東北大） 小林正人（白鷗大） 阪本（後藤）純子 定金計次（京都市立芸術大） 澤井義次（天理大） 島岩（金沢大） 高橋孝信（東京大） 土山泰弘（埼玉工業大） 手嶋英貴（京都精華大） 堂山英次郎（大阪大） 永田啓介（京都大・院） 中村隆海（東北大・院） 西村直子（東北大） 沼田一郎（東洋大） 林隆夫（同志社大） 引田弘道（愛知学院大） 伏見誠（ハーヴァード大・院） 松田祐子（九州龍谷短大） 村上昌孝 村川晶子（ベルリン自由大・博士修了） 森雅秀（金沢大） 矢野道雄（京都産業大） 山下勤（京都学園大） 吉水清孝（北海道大）

- 5月6日 第1回研究会（報告会1）
共同研究「王権と儀礼」事始め 藤井
- 6月3日 第2回研究会（報告会2）
The Nasatyas and Proto-Aryan religion Parpola
- 6月17日 第3回研究会（会読1）
Vadhula-Srautasutra 10, 1, 1-17
梶原
- 7月1日 第4回研究会（会読2）
Vadhula-Srautasutra 10, 1, 18-60
手嶋
- 7月15日 第5回研究会（報告会3）
The emergence of the large states

and of empire in Eastern North India Witzel

- 9月30日 第6回研究会（会読3）
Vadhula-Srautasutra 10, 1, 61-10, 2, 20 (I) 井狩
- 10月14日 第7回研究会（会読4）
Vadhula-Srautasutra 10, 1, 61-10, 2, 20 (II) 井狩
- 10月28日 第8回研究会（会読5）
Vadhula-Srautasutra 10, 2, 21-43
大島
- 11月18日 第9回研究会（報告会4）
文化人類学からみたインドの王権—ルイ・デュモン『ホモ・ヒエラルキクス』とそれ以後 田中
- 12月2日 第10回研究会（会読6）
Vadhula-Srautasutra 10, 2, 44-10, 3, 7 横地
- 12月16日 第11回研究会（会読7）
Vadhula-Srautasutra 10, 3, 8-28
赤松

東方学研究部

中国美術の図像学 班長 曾布川寛

古代、中世の美術において表現されたものは全て象徴的意味内容を有しており、それが何を表しているかを知ることなしに作品の理解はあり得ない。作品の背景には神話伝説、宗教的義軌、社会的状況などがあり、それらを踏まえて理解することが要求される。我々は中国の古代、中世美術を取り上げるに当たり、図像学の見地から考察を試みる。主たる対象は考古学的出土文物と、石窟寺院などの仏教美術であり、中国のみならず、インド、朝鮮、日本を含めて考察する。

王玄策研究 班長 高田時雄

王玄策は唐の太宗から高宗の時代にかけて、数度にわたり正使あるいは副使としてインドに赴き、中印文化交流史に足跡を残した。その著とされる『中天竺国行記』は現在では散佚して、『法苑珠林』『諸

経要集』『釈迦方誌』などに断片的な記載が見られるのみである。本研究班では、王玄策の使節に関する文献資料を集め、読み解くことによって、当時の中国からインドにわたる地域の歴史・宗教・言語・文化などの情報を引き出すことを目的とする。

中国文明の形成

班長 小南一郎

研究班は、予定の五年の期間を終えることになったが、王国維「観堂集林」の読書を最後まで続けた。五年間の期間中に読めたのは、芸林一から芸林五の「爾雅草木魚鳥獸名釈例」までである。「観堂集林」には、読めなかった部分にも重要な論考が収められている。しかし、研究会で読んだ部分からも、王国維の、中国の古典的な文献資料と新しい出土資料とを組み合わせる論証する、中国古代文化復元の方法のおおよそは把握できたのではないかと思う。王国維の方法に対する理解を基礎にして、最近、次々と紹介される新しい資料との取り組みの中から、我々自身の方法論を築いてゆくのが、今後の課題である。

期間中に行なわれた研究班員たちの研究報告をもとにし、13篇の論文を収めた報告書、『中国文明の形成』が、3月に出版された。

中国の生活空間と造形

班長 田中 淡

中国の伝統的な生活空間とそれに直截的に関わる造形を対象とした2年間の試験的研究を結束した。

三教交渉の研究

班長 麥谷邦夫

本研究班は、中国中世における儒仏道三教間のかかはりをさまざまな角度から研究することを目的に、2000年度から5年間の予定で組織され、昨年度末をもって終了した。その研究成果は、『三教交渉論叢』（人文科学研究所、2005年3月刊）として公刊された。

三国時代の出土文字資料

班長 井波陵一・富谷至

本研究班は、当初の目的であった本研究所所蔵の魏晉時代文字拓本の会読を終え、その成果を『魏晉石刻資料選注』として公表した。『漢代石刻資料集成』にくらべ、会読した石刻の数は少ないが、『漢代石刻資料集成』にはみられなかった語彙が多く、

その索引は早速、新研究班である「北朝石刻資料の研究班」において活躍している。

また、拓本会読と並行しておこなわれた張家山漢簡・二年律令の訳注作成も終了し、その成果を東洋学報に公表した。また来年度には、訳注をまとめ直し、二年律令に関する論文集とあわせて公刊する予定である。

なお、当研究班で会読している拓本は、本研究所付属、漢字情報研究センター HP において公開されている。

* 石刻拓本資料

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/>

二〇世紀中国の社会システム

班長 森 時彦

本研究班は、清末から現在にいたる100年間における中国の社会システムの変動を多様な側面から総合的に検討することを目的として、2003年4月から5年計画でスタートした。折り返し点となる本年は、政治、財政、法律、経済、産業、情報、風俗など多面的な分野で、若手を中心とする意欲的な報告が際だった1年であった。

漢字情報学の構築

班長 安岡孝一

本研究班の主眼は、漢字テキストをコンピュータというマニタの上に載せて、何とかテキスト処理できるようにしよう、というものである。研究の対象としては、文字コード、組版、フォント、OCR、WWW、形態素解析、など多くの要素技術が考えられるが、本年は、漢文組版、拓本OCRにおける文字座標抽出、スケルトンフォント技術に関して議論をおこなった。なお、本研究班では、参加者全員が文献や書籍を見ながら論じ合うというスタイルを取っているため、特定の発表者等は記さないことにする。

中国古代の基礎史料

班長 浅原達郎

2005年からは、思いきって戦国時代の楚国の竹簡すなわち楚簡を読むことにした。とにかく楚簡の文字に慣れて、ある程度は読めるようになることをめざす。

楚簡研究の進展はめざましく、研究の中心は郭店楚簡から上海博物館蔵楚簡に移っている。われわれは周回遅れではあるが、無理に追いつこうとせず、しっかりと前を見て走っていくつもりである。

陰陽五行のサイエンス 班長 武田時昌

陰陽五行説は、物類や自然現象の法則性や相互関係を説明する原理として大いに用いられた学説であり、中国の諸分野において独自の理論構造を生み出すパラダイム的な役割を果たした。これまでの研究においては、陰陽五行説の成立過程や配当説、それを援用した漢代の政治思想等に詳しい考察が試みられてきた。しかしながら、三国時代以降の史的展開や理論構造の特質については、十分な検討がなされているわけではないように思われる。そこで、自然科学に限らず思想、宗教から文学、諸技芸に至る多彩な分野において、天人感応、物類相感等を含めた陰陽五行の説明原理が、実際にどのように活用されているのかを分析し、包括的、複眼的な見地からその構造と特色あるいは限界性を考究したいと考えている。

マークアップ—理論と実践 班長 C. Wittern

マークアップという行為はテキストに含まれた、文字で表現されていない側面を明確して、しかるべく記号の記入で、様々な分析、解読と処理の対象にすることである。この研究班の初年度ではテキストの理論の検討を出発点として、その議論を経て、後半年から今年にかけて、正倉院文書、『資治通鑑』などの具体的な例を見ながらそのテキストの解読としかるべきマークアップの理解を深めた。四月から、この問題を知識表現の側面から整理すると、最近の工学的な研究成果を確認するため、溝口理一郎の「オントロジー工学」を班員での会読とともに人文科学、特に中国の古典への応用の可能性を議論し続けた。第二・第四火曜日に漢字情報研究センター応接室で開催しているが、研究班の活動と成果はウェブの <http://chw.zinbun.kyoto-u.ac.jp/markup> で公開。

元代の法制 班長 岩井茂樹

2004年度から発足したこの研究班は、元朝時代

の行政文書・法制文書の会読をつうじて、その時代の制度と社会について知見をひろめることを目的としている。参加者それぞれが、会読の作業のなかから研究すべき課題を見だし、この時代の制度と社会の特質を理解する足がかりを得ることを期待している。とくに、前後の時代との連続と断絶という問題について洞察を深めたい。会読する資料として選択したのは『大元聖政国朝典章』礼部の部分（典章28～33）である。すでに、『新集至治條例』所収の記事を含めて、礼部にかかわる部分の会読は終了した。校訂電子本文の作成および閲覧・検索を提供するWebアプリケーションを作成済みであるので、礼部の部分については公開し、他の部分については初歩的な校正を終えた段階で暫定的に公開する予定である。今後は、『新集至治條例』所収刑部の記事を会読すると同時に、研究発表を交えて研究会をおこなう予定である。

中国近世日用類書の研究 班長 金 文京

昨年度に引き続き、『事林広記』の会読を行い、訳注を作成した。本年度は歴史関係（節序類）と科学史関係の会読を交互に行なった。担当は左記のとおりである。なお「学校類二」と「家礼類一」の訳注を『東方学報』第77冊に掲載した。

中国絵画の総合的研究 班長 曾布川寛

中国絵画の資料は、発掘に基づく古代・中世作品の出現、伝世する近世作品の公開などによって、近年ますます増加の一途をたどっているが、多くは未消化のまま放置されているのが現状である。この膨大な資料に対して、まずデータベースによる系統的整理が要求され、また多方面からのアプローチが要求されている。本研究班は可能な限り資料を収集し、様式論、図像学、画論、技法はもとより、パトロン、蒐集などの観点から考察し、更に書法・篆刻、詩文などの面からのアプローチも加え、総合的な研究を試みる。今年度は前回の共同研究のまとめを併せ行った。

漢簡語彙の研究 班長 富谷 至

本研究班は、居延や敦煌など、当時の辺境より出

土した漢簡から語彙を抽出して、その意味を定義し、最終的には漢簡語彙辞典を作成することを目標とする。

難解で、意味不明な語彙がときおり見られた二年律令とは異なり、ある語彙に対してみなが漠然と有するイメージを、どのように明確に言語化するかが作業の中心となっており、二年律令の訳注作成の時とは、また違った楽しみがある。

現在は居延漢簡釈文合校をテキストとし、居延新簡などを援用しつつ、作業をすすめている。近年、額済納漢簡が公表され、また膨大な分量の懸泉置漢簡もひかえており、語彙のバリエーションは豊かになっていくであろう。

伝統中国の生活空間

班長 田中 淡

中国の伝統的な生活空間および造形、すなわち具体的には住まい、宮殿、庭園、あるいは家具配置、室内空間、日常生活と儀礼等々の諸相をととして、その特質を探る。時代・地方を限定せず、また建築空間に限らず、広義的な意味で日常あるいは儀礼の生活空間を対象として、中国学の関連分野および東アジア、周辺地域の専門家の参加を得て、多様な研究主題をとりあげてゆく。研究発表と併行して班員共通の会読テキストとして、明・方以智『通雅』宮室をとりあげる。

三教交渉の研究(Ⅱ)

班長 麥谷邦夫

本研究班は、「三教交渉の研究」研究班の後を承け、引き続き中国中世における儒仏道三教間のかかりをさまざまな角度から研究することを目的に、2005年度から5年間の予定で組織された。初年度は、「三教交渉の研究」班において読み切れなかった『茅山志』の巻25以降の会読を継続して行ひ、巻27までを読了したところである。

北朝石刻資料の研究

班長 井波陵一

本研究班では人文研所蔵の北朝石刻資料(一部南朝を含む)のうち、比較的まとまった分量の文章をもつものを対象として取り上げる。進め方は魏晋石刻資料の場合と同じく、まず実際に拓本を拡げて文字の対校を行い、次いで語注を施す。その際、各種

の文献や他機関所蔵拓本の写真を極力参考にすることは言うまでもない。

真諦三蔵とその時代

班長 船山 徹

本研究班は、6世紀の真諦三蔵を鍵として、彼の地理的動きや仏教僧としての位置づけ、その時代背景、多様な宗教事情等について考察する。四大翻訳家のひとりに数えられる真諦は、正量部という部派と密接な関係がある一方で、教理学的には説一切有部の俱舍論を重視し、大乘仏教徒としては唯識思想を宣揚するという複合的な立場に立つ。研究班では特に翻訳作成時に作成された真諦自身の注釈(疏)に注目し、その佚文を回収し読解することを通じて、インド仏教と中国仏教の双方から真諦の活動に対する新たな理解を試みる。

中国古鏡の研究

班長 岡村秀典

漢代の銅鏡は、図像文様の変化がいちじるしく、考古資料の年代をはかる指標として東アジア各地で重視されてきた。また、その図像と銘文は、漢人の精神世界をものがたる資料としても注意されてきた。そのような視角に留意しながら、本年はとくに文学史における銘文の意義に着目し、音韻論からそれを論じたB. Karlgren, "EARLY CHINESE MIRROR INSCRIPTIONS" (BMFEA, No. 6, 1934) を会読した。

客員部門

近代京都研究

班長 丸山 宏

かつての首都としての文化の長い「伝統」と、近現代の一地方都市という社会・経済的現実との相克が、近代京都の歴史を織りなしてきた縦糸と横糸と考えれば、「伝統」と現実の互いにずれた都市性格をいかに調整するかが明治以来現在まで京都の実際の政治的課題であった。このずれのなかに、近代京都のさまざまな問題への糸口が潜んでいると思われる。「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を総合的に論じ、さまざまな分野の具体的な主題を互いに論じながら、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を考えてきた。2006年度に

は、3年間の共同研究の報告書をまとめる。

班員 大原嘉豊 菊地暁 金文京 高木博志 高階絵里加 谷川穰 水野直樹（以上所内）天野太郎 伊従勉 金坂清則 藤原学 山田誠（以上人間環境学研究科）小林丈広 秋元せき（以上京都市歴史資料館）イ・ヒャンス（京都造形芸術大・非常勤）石田潤一郎 笠原一人 中川理 並木誠士 日向進（以上京都工芸繊維大）井上章一（日文研）岡村敬二（京都学園大）長志珠絵（神戸市外大）小野健吉（奈良文化財研究所）小野芳朗（岡山大）黒岩康博（文学研究科・院）才津祐美子（日文研COE）坂口さとこ 清水愛子 山田由希代（以上京都工芸繊維大・院）鈴木栄樹（京都薬科大）高久嶺之介（同志社大）田島達也（京都市立芸大）中村武生（佛教大・非常勤）原田敬一（佛教大）福井純子（立命館大・非常勤）福島栄寿（真宗大谷派教学研究科）芳井敬郎（花園大）宇佐美尚穂（京都女子大研修員）

1月22日 「国民公園」京都御苑の近代—京都における遺産公園としての特性— 井原

2月19日 有職故実家・猪熊浅麿 猪熊 兼勝

3月16日 エクスカーション 大阪市松島・川口旧居留地・飛田新地

3月19日 宇治川水力発電所工事と朝鮮人労働者 水野

4月16日 京都風致行政の戦前戦後—市民からみた風致保全制度— 伊従

5月28日 京都府画学校と泉涌寺御座所 田島『我楽多珍報』の周辺—京都日日新聞社を中心に— 福井

6月18日 地価分布からみた近代京都の地域構造 山田 誠
凋落の能楽師—序— 小野 芳

7月8-9日 人文研夏期講座
京都の「公的記憶」と「共同体の記憶」 小林
近代京都名勝考—京都の森林風致— 丸山

近代京都と国風文化・安土桃山文化

高木 フランスの詩学 宇佐美 齊
都市の計画と京都イメージの変遷— 前近代日本の文明史的研究 横山 俊夫

治・大正・昭和の3断面 伊従

7月30日 柳田国男生誕130周年記念シンポジウム「京都で読む柳田国男」（柳田国男の会と共催）

京都でまなんだ柳田国男 加藤 秀俊
主な登場人物—京都で柳田国男と民俗学を考えてみる— 菊地

三つ子に鮎鮎—昭和七年・京都における民俗学/土俗学について—

土居 浩
戦後京都学派における柳田国男の受容について 鶴見 太郎

文化史学と民俗学 林 淳
コメント1 小林

コメント2 佐藤 健二

9月17-18日 エクスカーション 福知山市, 加悦町

研究報告 高久, 日向, 関戸未帆子
9月30日 エクスカーション 西本願寺, 宇佐美松鶴堂

10月15日 五二会品評会からみた明治期京都の産業 宇佐美

茨木キリシタン遺物の発見 高木
11月19日 近代京都の建碑と史蹟創出—「三宅安兵衛遺志」碑と京都市教育会建立碑—

中村
京都大学における「学徒出陣」—京都大学大学図書館における調査より—

西山 伸
12月10日 遷都千百年記念祭と府県連合事業—明治中期における国民祭典の構造と歴史的環境— 鈴木

昭和大礼にみる京都の観光行政 工藤

II 個人研究

人文学研究部

彙 報

近代東アジアにおける日本の法と政治	山室 信一	中国科学の思想史的考察	武田 時昌
フランス革命と近代的主体の成立	富永 茂樹	近代中国の財政と社会	岩井 茂樹
近代朝鮮の政治と社会	水野 直樹	先秦時代の金文	浅原 達郎
在日米軍を中心とする軍事共同体の人類学的研究	田中 雅一	古代中国の考古学研究	岡村 秀典
文学理論の研究	大浦 康介	川西走廊の漢藏諸語の記述言語学的研究	池田 巧
ヴェーダ文献の生成と伝承の研究	藤井 正人	インド・中国における仏教の学術と実践	
人種・エスニシティ論	竹沢 泰子		船山 徹
戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク	籠谷 直人	文字コード理論	安岡 孝一
	高木 博志	イスラーム東漸史の研究	稲葉 穰
近代天皇制の文化史的研究	高階絵里加	仏教研究知識ベース— 禅仏教を例として	
近代日本の芸術と西洋	加藤 和人		ウィッテルン, クリスティアン
現代社会における生物学・生命科学	岡田 暁生	中国共産党史の研究	石川 禎浩
音楽におけるロマン派とメロドラマ的音楽		秦漢時代の制度史	宮宅 潔
		清代の道教龍門派の歴史及び内丹の研究	
19世紀末イギリスのポピュラー・コンサヴァティズム	小関 隆		エスポジト, モニカ
南アジアの歴史人類学	田辺 明生	高麗官僚制度研究	矢木 毅
近世ヨーロッパの歴史叙述と政治思想	王寺 賢太	中国近世の国家支配の研究	古松 崇志
幕末期の畿内・近国社会	岩城 卓二	文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究	
南アジア・ムスリム社会の社会構造	小牧 幸代	客家語およびその周辺言語の記述研究	中西 裕樹
近代日本民俗誌システムの研究	菊地 暁	中国仏教絵画の研究	大原 嘉豊
近世ヨーロッパの国際金融研究	坂本優一郎	中国古代中世の官制史	藤井 律之
近代西洋医学発展史研究および身体論	田中祐理子	モンゴル時代の文化政策と出版活動	宮 紀子
ナチス・ドイツの農業政策	藤原 辰史	中国魏晋南北朝志怪の成立背景	佐野 誠子
近代日本における教育 / 教化 / 宗教の関係史	谷川 穰	明代後期北虜南倭時代の中国社会	山崎 岳
	李 昇燁	中国家具とその使用に関する研究	高井たかね
近代朝鮮在住日本人社会の研究	倉島 哲	中国唐宋の文学批評	永田 知之
身体技法の認識論	久保 昭博	中国唐末宋初禅思想研究	齋藤 智寛
近代詩の虚構性			

東方学研究部

中国の小説, 演劇及び説唱文学の歴史	金 文京
中国美術の様式と意味	曾布川 寛
中国建築の様式・技法・空間	田中 淡
近代中国の綿紡織業	森 時彦
道教思想研究	麥谷 邦夫
敦煌写本の言語史的研究	高田 時雄
中国古代中世の法制	富谷 至
清代の文化と社会	井波 陵一

事業概況

第1回 TOKYO 漢籍 SEMINAR

2005年3月	於 学術総合センター (千代田区一ツ橋)
12日	「書写の文化史」 富谷 至
	「漢訳仏典の成立」 船山 徹
	「使えない字— 諱と漢籍」 井波 陵一
	退職記念講演会
2005年3月	於 本館大会議室
17日	漢字の誕生 教授 小南 一郎

人 文 学 報

古代シュメールの土地制度 — 1枚の
粘土板からなにが読みとれるか —

教授 前川 和也

夏期公開講座

2005年7月

於 本館大会議室

古都イメージの近代と現実

8日 京都の「公的記憶」と「共同体の記
憶」

京都市歴史資料館主任 小林 丈広
近代京都名勝考 — 京都の森林風致 —
名城大学教授・人文科学研究所
客員教授 丸山 宏

9日 近代京都と国風文化・安土桃山文化

高木 博志

都市の計画と京都イメージの変遷 —
明治・大正・昭和の3断面 —
人間・環境学研究科教授 伊従 勉

開所76周年記念公開講演会

2005年11月

於 本館大会議室

4日 界面としてのキャラクター

守岡 知彦

ピアニストになりたい！

— 練習曲の思想と19世紀 —

岡田 暁生

雲岡石窟寺の考古学研究 岡村 秀典

漢字情報研究センター講習会

・2005年度漢籍担当職員講習会（初級）

第1日（10月3日）

漢籍について

東京大学東洋文化研究所教授 大木 康

漢籍目録の構造 — 漢籍整理の基礎

文学研究科助教授 宇佐美 文理

カードの取り方 — 漢籍整理の実践 山崎 岳

第2日（10月4日）

工具書について

藤井 律之

漢籍目録カード作成実習

第3日（10月5日）

文字コードとテキスト処理の歴史

ウィッチェルン、クリスティアン

目録検索とデータベース検索

安岡 孝一

漢籍データベースについて

高田 時雄

漢籍データ入力実習（1）

第4日（10月6日）

漢籍目録を読む

千葉大学文学部助教授 古勝 隆一

漢籍データ入力実習（2）

第5日（10月7日）

NII総合目録データベースと全国漢籍データ
ベース

国立情報学研究所教授 宮澤 彰

実習解説

梶浦 晋

・2005年度漢籍担当職員講習会（中級）

第1日（11月7日）

四部分類概説

宮宅 潔

中国目録学史（1）

諸子百家から子部書へ

武田 時昌

叢書 — 漢籍分類の特色

梶浦 晋

第2日（11月8日）

中国目録学史（2）

中国の写本について

滋賀医科大学医学部助教授

辻 正博

叢書と漢籍データベース

安岡 孝一

漢籍データ入力実習（1）

第3日（11月9日）

中国目録学史（3）

朝鮮の漢籍について

矢木 毅

漢籍データ入力実習（2）

第4日（11月10日）

現代中国書について

横浜国立大学大学院国際社会科学研究所

助教授 村上 衛

漢籍データ入力実習（3）

第5日（11月11日）

『東洋学文献類目』について

富山大学人文学部助教授

森賀 一恵

実習解説

梶浦 晋

所 員 動 静

・王寺賢太氏を助教授（人文学研究部）に採用（1

- 月1日付)。
- ・小南一郎教授(東方学研究部)は定年により退職(3月31日付)。
 - ・前川和也教授(人文学研究部)は定年により退職(3月31日付)。
 - ・真下裕之助手(東方学研究部)は辞任の上(3月31日付)、神戸大学文学部助教授に就任。
 - ・村上衛助手(東方学研究部)は辞任の上(3月31日付)、横浜国立大学大学院国際社会科学研究所助教授に就任。
 - ・金文京教授(東方学研究部)を当研究所長(4月1日～2007年3月31日)及び附属漢字情報研究センター長(4月1日～9月30日)に併任。
 - ・横山俊夫教授(人文学研究部・大学院地球環境学 両任)は副学長ならびに国際交流推進機構長に併任(4月1日付)。
 - ・岩城卓二大阪教育大学助教授を助教授(人文学研究部)に採用(4月1日付)。
 - ・竹沢泰子助教授(人文学研究部)は当研究所教授(人文学研究部)に昇任(4月1日付)。
 - ・岡村秀典助教授(東方学研究部)は当研究所教授(東方学研究部)に昇任(4月1日付)。
 - ・永田知之氏を助手(附属漢字情報研究センター)に採用(5月1日付)。
 - ・齋藤智寛東北大学大学院文学研究科助手を助手(附属漢字情報研究センター)に採用(8月1日付)。
 - ・森本淳生助手(人文学研究部)は辞任の上(8月31日付)、一橋大学大学院言語社会研究科助教授に就任。
 - ・森時彦教授(東方学研究部)を附属漢字情報研究センター長に併任(10月1日～2007年3月31日)。
 - ・久保昭博氏を助手(人文学研究部)に採用(12月1日付)。
 - ・池田巧助教授(東方学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、2004年12月24日大阪発、香港城市大学及び西南民族大学に於いて東チベットの地名と民族語の分布に関する研究打合せ及び資料収集を行い、1月3日帰国。
 - ・岩井茂樹教授(東方学研究部)は、1月6日大阪発、中国人民大学で開催の中日学者清史研究座談会に於いて学術報告を行い、1月8日帰国。
 - ・池田巧助教授(東方学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、1月6日大阪発、中央民族大学蔵学研究中心に於いてムニャ語及びカム方言の記述調査を行い、1月12日帰国。
 - ・高田時雄教授(東方学研究部)は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、1月17日大阪発、中央研究院歴史語言研究所に於いて唐代ナリッジベースに関する打合せ及び若手研究者の実習打合せを行い、1月19日帰国。
 - ・山室信一教授(人文学研究部)は、1月18日大阪発、成均館大学に於いて国際シンポジウム「東アジア近代知性の東アジア認識」に出席・講演を行い、1月22日帰国。
 - ・高田時雄教授(東方学研究部)は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、1月20日大阪発、中国国家図書館に於いて日中共同ワークショップ「漢字文献資料庫の新技術」に出席及び研究打合せを行い、1月24日帰国。
 - ・ウィッテルン、クリスティアン助教授(附属漢字情報研究センター)は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、1月20日大阪発、中国国家図書館に於いて日中共同ワークショップ「漢字文献資料庫の新技術」に出席及び報告を行い、1月24日帰国。
 - ・安岡孝一助教授(附属漢字情報研究センター)は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、1月20日大阪発、中国国家図書館に於いて日中共同ワークショップ「漢字文献資料庫の新技術」に出席及び報告を行い、1月24日帰国。
 - ・守岡知彦助手(附属漢字情報研究センター)は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、1月20日大阪発、中国国家図書館に於いて日中共同ワークショップ「漢字文献資料庫の新技術」に出席及び研究打合せを行い、1月24日帰国。
 - ・山崎岳助手(附属漢字情報研究センター)は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、1月20日大阪発、中国国家図書館に於いて日中共同ワークショップ「漢字文献資料庫の新技術」に出席及び研究打合せを行い、1月24日帰国。

- ・竹沢泰子助教授（人文学研究部）は、1月19日成田発、ハーヴァード大学に於いて人種に関する資料収集及び研究打合せを行い、1月26日帰国。
- ・田中雅一教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、1月15日大阪発、国立シンガポール大学に於いてインド系質屋の研究及び文献収集・調査を行い、1月30日帰国。
- ・田中祐理子助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、1月25日大阪発、ロンドン大学に於いて19世紀微生物学研究に関する資料収集を行い、1月31日帰国。
- ・ウィッテルン、クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、1月25日大阪発、中華佛学研究所及び中華電子佛典協会に於いて唐代ナリッジベースについての研究打合せを行い、2月1日帰国。
- ・水野直樹教授（人文学研究部）は、1月29日大阪発、ソウル大学に於いて韓国社会史学会特別シンポジウムに出席及び資料調査、国家記録院に於いて資料調査を行い、2月5日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月23日大阪発、ソウル大学図書館に於いて中国学関係資料調査、韓国精神文化研究院に於いて韓国寓言文学会2005年度東亜国際学術大会に出席及び論文発表を行い、2月26日帰国。
- ・山室信一教授（人文学研究部）は、2月21日大阪発、ミャンマーに於いて「アジアにおける記憶遺跡と調査活動」についての調査を行い、2月27日帰国。
- ・竹沢泰子助教授（人文学研究部）は、2月21日成田発、ブルックリンズ研究所、ニューヨーク州立大学及びハーヴァード大学に於いてアジア系アメリカ人研究者の対アジア意識に関するインタビュー調査を行い、3月1日帰国。
- ・守岡知彦助手（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、2月27日大阪発、中国国家図書館及び北京新世紀日航飯店に於いて日中共同ワークショップ「漢字文献資料庫の新技術」に出席及び研究打合せを行い、3月4日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月26日大阪発、プロイセン財団国立図書館及びオーストリア国立図書館に於いてヨーロッパ現存中国学資料収集及び調査を行い、3月5日帰国。
- ・麥谷邦夫教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月1日大阪発、中山大学に於いて江南道教に関する研究打合せ、雲南省社会科学院等に於いて道教遺跡の調査及び資料蒐集を行い、3月6日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月3日大阪発、中国国家図書館に於いて中国近世出版資料調査を行い、3月6日帰国。
- ・森本淳生助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月1日大阪発、フランス国立図書館及びクレルモン・フェラン大学に於いてヴァレリー『若きパルク』に関する資料調査を行い、3月13日帰国。
- ・田辺明生助教授（人文学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、3月11日大阪発、ヤンゴン大学に於いて国際会議「イワラジデルタにおける村民の暮らしと農業環境の変容」に出席及びバガン仏教遺跡視察を行い、3月16日帰国。
- ・真下裕之助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月13日大阪発、パンジャブ大学図書館に於いて前近代インドにおけるイスラーム諸国家制度の動態的研究に関する文献調査及び資料収集を行い、3月19日帰国。
- ・小牧幸代助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月5日大阪発、イスラミーヤ大学、パンジャブ大学及び政策学研究所等に於いて「インド北・西部における都市型祭礼の変容に関する文化人類学的研究」に関わる現地調査・文献調査を行い、3月20日帰国。
- ・高井たかね助手（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、3月10日大阪発、蘭州市、西寧市、張掖市、酒泉市及び敦煌市等に於いて壁画、唐代仏教美術及び唐代城址に関する調査を行い、3月21日帰国。

- ・籠谷直人助教授（人文学研究部）は、日本学術振興会受託研究費により、3月18日大阪発、香港大学に於いて第16回人類学研究会に出席し、3月22日帰国。
- ・船山徹助教授（東方学研究部）は、3月14日大阪発、中華仏学研究所に於いてインド仏教史に関する研究打合せを行い、3月23日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、3月24日大阪発、漢陽大学に於いて韓国中国語学国際会議に出席及び論文発表を行い、3月25日帰国。
- ・中西裕樹助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月12日大阪発、広東省海豊県に於いてショオ語の記述調査及び資料収集を行い、3月27日帰国。
- ・横山俊夫教授（人文学研究部）は、3月21日大阪発、平成16年度文部科学省「科学技術国際協力の総合的推進〈派遣〉事業」により、ケンブリッジ大学・環境研究イニシアティブ（CEI）主催、「気候変動特別セミナー」に参加、意見交換を行い、3月30日帰国。
- ・岡村秀典助教授（東方学研究部）は、3月27日福岡発、旅順博物館に於いて遼東の遺跡調査を行い、3月31日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、4月5日大阪発、香港城市大学に於いて講演を行い、4月10日帰国。
- ・陳慶浩客員教授は、4月8日大阪発、台湾国立嘉義大学に於いて第2届中国小説戯曲国際学術研討会に出席し、4月11日帰国。
- ・武田時昌教授（附属漢字情報研究センター）は、4月24日大阪発、ラディソン・ソウルプラザホテルに於いて「日韓科学史・儒学史比較研究」研究会議に出席し、4月28日帰国。
- ・ウィッテルン、クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、4月15日大阪発、ハイデルベルグ科学院に於いてワークショップ「中国石刻仏典」に出席、フランス規格協会に於いてTEI評議委員会に出席し、5月2日帰国。
- ・古松崇志助手（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、5月1日大阪発、巴林右旗博物館、内蒙古文物考古研究所及び中国国
家図書館等に於いて遺跡・文物調査、研究打合せを行い、5月11日帰国。
- ・曾布川寛教授（東方学研究部）は、5月10日大阪発、台湾大学芸術史研究所に於いて外部評価、中央研究院歴史語言研究所及び故宫博物院に於いて美術資料蒐集を行い、5月14日帰国。
- ・矢木毅助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、5月11日大阪発、スウェーデン王立アカデミーに於いてワークショップ「東アジアにおける死刑」に出席し研究発表を行い、5月17日帰国。
- ・富谷至教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、5月10日大阪発、スウェーデン王立アカデミーに於いてワークショップ「東アジアにおける死刑」に出席し研究発表を行い、ストックホルム大学に於いて研究打合せを行い、5月19日帰国。
- ・竹沢泰子教授（人文学研究部）は、文部科学省海外先進教育研究実践支援プログラム補助金により、3月30日成田発、ハーヴァード大学に於いて人種に関する資料収集及び研究打合せを行い、5月20日帰国。
- ・田中祐理子助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、5月25日大阪発、パリ・パスツール研究所に於いて微生物学研究に関する資料調査を行い、6月4日帰国。
- ・ウィッテルン、クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、6月13日大阪発、ヴィクトリア大学に於いてACH/ALLC 2005年度共同年會に出席及び研究発表を行い、6月20日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、6月23日大阪発、上海社会科学院に於いて「古代内陸アジアと中国文化国際学術研討会」に出席及び漢字文献の調査を行い、6月27日帰国。
- ・佐野誠子助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、6月26日大阪発、南京博物院、復旦大学及び上海博物館に於いて中国南朝宗教資料の調査を行い、6月30日帰国。
- ・宮紀子助手（東方学研究部）は、文部科学省科学

- 研究費補助金により、7月1日大阪発、台湾国家図書館及び故宮博物院に於いて『元史』の志と表の再編纂の研究に関する調査及び資料収集を行い、7月8日帰国。
- ・田辺明生助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金及び京都大学教育研究振興財団助成金により、3月22日大阪発、インド、ジャワハラル・ネルー大学に於いて国際会議に出席、国立文書館に於いて「南アジア近代における『民主主義と開発』」の歴史的研究、ウトカル大学等に於いて「自由とダルマの人類学：現代インドにおける地域倫理の模索」研究を行い、7月10日帰国。
 - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、7月3日大阪発、ロシア国立アカデミー東方学研究所ペテルブルグ支所に於いて漢字文献の調査及び敦煌学国際連絡委員会幹事会に出席し、7月10日帰国。
 - ・森本淳生助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、6月24日大阪発、フランス国立図書館、国際文化センター及びクレルモン・フェラン大学に於いてポール・ヴァレリーに関する資料調査及び研究発表等を行い、7月11日帰国。
 - ・エスポジト、モニカ助教授（東方学研究部）は、7月23日大阪発、台湾中央研究院に於いて道教プロジェクトに関する研究打合せを行い、7月25日帰国。
 - ・ウィッテルン、クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、7月18日大阪発、中華仏学研究所及び中華電子仏典協会に於いてワークショップ、デジタル・テキストのためのプログラミングに出席及び研究打合せを行い、7月27日帰国。
 - ・藤原辰史助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、7月18日大阪発、ベルリン、リヒターフェルデ連邦文書館に於いてナチス期農業政策に関する資料収集を行い、8月7日帰国。
 - ・岡村秀典教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月5日大阪発、陝西省考古研究所に於いて遺跡の考古学的調査を行い、8月12日帰国。
 - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、8月9日成田発、大英図書館及びプロイセン国立図書館に於いて奈良平安古写経及び関連文献調査を行い、8月18日帰国。
 - ・池田巧助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、7月23日大阪発、中央民族大学、西南民族大学、寧夏大学及び康定近郊に於いて木雅語及びカム方言の記述調査を行い、8月24日帰国。
 - ・金文京教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月17日大阪発、首都師範大学に於いて中国古代小説文献与数字化国際研討会及び明代文学与文化国際学術研討会に参加・論文発表を行い、8月24日帰国。
 - ・水野直樹教授（人文学研究部）は、8月21日大阪発、上海に於いて第4回アジア研究者世界大会に参加・発表及び資料調査を行い、8月26日帰国。
 - ・中西裕樹助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月7日大阪発、香港中文大学及び海豊県誌弁公室に於いてショオ語の現地調査及び資料収集を行い、8月27日帰国。
 - ・李昇燁助手（人文学研究部）は、8月14日大阪発、ソウル国立中央図書館、国史編纂委員会及び韓国学中央研究院に於いて日本外務省の朝鮮人官僚研究及び植民地居住者の帝国議会請願事項に関する研究のための資料調査を行い、8月27日帰国。
 - ・船山徹助教授（東方学研究部）は、京都大学教育研究振興財団助成金等により、8月20日大阪発、ウィーン大学に於いて8世紀のインドの仏教認識論における宗教的側面に関する研究発表及び資料収集を行い、8月30日帰国。
 - ・山室信一教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月23日大阪発、ゴビ自然博物館、モルツォク砂丘に於いてゴビ砂漠地域における空間構成・生業の態様とその展示方法の調査、ウランバートルに於いて都市部・草原地域における空間認識及びモンゴル・東アジアの政

- 治思想史に関する史跡調査を行い、8月30日帰国。
- ・菊地暁助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月23日大阪発、ゴビ自然博物館、モルツォク砂丘に於いてゴビ砂漠地域における空間構成・生業の態様とその展示方法の調査、ウランバートルに於いて都市部・草原地域における空間認識及びモンゴル・東アジアの政治思想史に関する史跡調査を行い、8月30日帰国。
 - ・谷川穰助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月23日大阪発、ゴビ自然博物館、モルツォク砂丘に於いてゴビ砂漠地域における空間構成・生業の態様とその展示方法の調査、ウランバートルに於いて都市部・草原地域における空間認識及びモンゴル・東アジアの政治思想史に関する史跡調査を行い、8月30日帰国。
 - ・坂本優一郎助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月16日大阪発、大英図書館及びギルドホール図書館に於いてイギリス財政革命の社会的影響に関する史料調査を行い、8月31日帰国。
 - ・古松崇志助手（東方学研究部）は、8月19日大阪発、新疆ウイグル自治区イリ川流域等に於いて歴史・考古・自然環境のフィールド調査を行い、9月3日帰国。
 - ・横山俊夫教授（人文学研究部）は、8月26日大阪発、ウィーン大学に於いて第11回ヨーロッパ日本研究者協会総会にて基調講演を行い、9月5日帰国。
 - ・石川禎浩助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月23日大阪発、荊州（湖北省）に於いて中国近現代史関係の現地調査及び資料調査を行い、北京市档案馆等に於いて中国社会主义文化についての資料調査を行い、9月6日帰国。
 - ・森時彦教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月23日大阪発、武漢、荊州、常州、上海等に於いて中国県制に関する現地調査及び資料調査を行い、9月6日帰国。
 - ・小関隆助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月29日大阪発、アイ
- ルランド国立図書館に於いて「19世紀末イギリスのポピュラー・コンサヴァティズム」に関わる史料調査を行い、9月8日帰国。
- ・稲葉穰助教授（東方学研究部）は、8月16日大阪発、イランにおける前イスラーム期遺跡群共同学術調査を行い、9月9日帰国。
 - ・大原嘉豊助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月1日大阪発、杭州、湖州、蘇州及び上海に於いて中国仏教美術資料調査を行い、9月12日帰国。
 - ・岩井茂樹教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月13日大阪発、無錫市及び上海市内に於いて中国県制の研究にかかわる現地調査及び資料収集を行い、9月18日帰国。
 - ・森時彦教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月13日大阪発、無錫市及び上海市内に於いて中国県制の研究にかかわる現地調査及び資料収集を行い、9月18日帰国。
 - ・エスポジト、モニカ助教授（東方学研究部）は、8月20日大阪発、コレージュ・ド・フランス図書館に於いて道藏輯要計画調査を行い、9月26日帰国。
 - ・宮紀子助手（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、9月19日大阪発、遼寧省文物考古研究所、遼寧省博物館等に於いて遼寧省における遼文化の歴史・現状・環境に関する学術調査を行い、9月26日帰国。
 - ・古松崇志助手（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、9月19日大阪発、遼寧省文物考古研究所、遼寧省博物館等に於いて遼寧省における遼文化の歴史・現状・環境に関する学術調査を行い、9月26日帰国。
 - ・大原嘉豊助手（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、9月19日大阪発、遼寧省文物考古研究所、遼寧省博物館等に於いて遼寧省における遼文化の歴史・現状・環境に関する学術調査を行い、9月26日帰国。
 - ・ウィッテルン、クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、9月25日大阪発、オックスフォード大学に於いてTEIワーキング・グループ会議に出席及び研究打合せを行い、9月

- 30日帰国。
- ・大浦康介教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月23日大阪発、フランス社会科学高等研究院及びフランス国立図書館に於いてフィクション研究のための資料調査及び研究打合せを行い、10月3日帰国。
 - ・倉島哲助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月28日成田発、フランス外務省国際会議センターに於いてアジア・ネットワーク第2会議に出席・研究報告を行い、10月3日帰国。
 - ・池田巧助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月1日大阪発、大英図書館及びフランス国立図書館に於いてナム語文献調査を行い、10月14日帰国。
 - ・岡村秀典教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月17日大阪発、西安、洛陽、邯鄲等に於いて北魏時代の遺跡と出土遺物の調査を行い、10月30日帰国。
 - ・藤井律之助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月20日大阪発、西安、洛陽、邯鄲等に於いて北魏時代の遺跡と出土遺物の調査を行い、10月30日帰国。
 - ・加藤和人助教授（人文学研究部）は、10月23日大阪発、ソルトレイクシティに於いて第8回国際HapMap会議及び米国人類遺伝学会に出席し、10月31日帰国。
 - ・中西裕樹助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月26日大阪発、廈門大学に於いて第38回国際漢蔵語学術研討会に出席し、11月2日帰国。
 - ・BEN-ARI, Eyal 外国人研究員は、11月1日大阪発、香港大学日本研究所に於いて口述試験等を行い、11月3日帰国。
 - ・ウィッテルン, クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、10月26日大阪発、ブルガリア科学院に於いてTEIメンバーズミーティングに出席、ハイデルベルグ科学院に於いて石刻仏典のデジタル化についての研究打合せを行い、11月6日帰国。
 - ・山室信一教授（人文学研究部）は、11月2日大阪発、ソウル大学に於いて講演及び国際シンポジウム「国際政治と東アジア」参加を行い、11月6日帰国。
 - ・岡田暁生助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月9日大阪発、フィレンチェ音楽院図書館及びヴェネチア音楽院図書館に於いて19世紀オペラに関する資料調査を行い、11月15日帰国。
 - ・安岡孝一助教授（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省研究拠点形成費補助金（一部先方負担）により、11月12日大阪発、上海師範大学に於いて敦煌学知識庫国際学術研討会に出席し、11月15日帰国。
 - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金（一部先方負担）により、11月9日大阪発、香港大学に於いて第5次中文文献資源共建共享会議に出席、上海師範大学に於いて敦煌学知識庫国際学術研討会に出席し、11月16日帰国。
 - ・田中雅一教授（人文学研究部）は、11月19日大阪発、シンガポール・アジア文明博物館に於いて身体資源及び性の表象についての調査を行い、11月21日帰国。
 - ・小牧幸代助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月6日大阪発、デリーに於いてムスリム聖者ニザームディーンの墓廟における聖者祭の調査を行い、11月27日帰国。
 - ・BEN-ARI, Eyal 外国人研究員は、11月21日大阪発、ルンド大学に於いて文化人類学に関する会議に出席、マルモ大学に於いて講演を行い、11月28日帰国。
 - ・田中雅一教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月2日大阪発、ゴアにおいて薬用植物の生産、流通、消費についての調査、国際会議「贈与交換経済における貨幣資源の浸透」に出席及び発表を行い、12月21日帰国。
 - ・中西裕樹助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月22日大阪発、広西民族学院に於いて瀕危言語国際学術研討会に出席し、12月25日帰国。

・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、12月24日大阪発、台湾国家図書館に於いて漢籍データベースの相互乗り入れに関する研究打合せを行い、12月27日帰国。

・山崎岳助手（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月19日大阪発、温州・福建沿海地域に於いて東アジア海域交流史関連史跡の現地調査を行い、12月28日帰国。

外国人研究員

・DOUMET, Christian バリ第8大学教授
ヴィクトル・セガレンの「エグゾティスム」と文化交渉

（文化生成研究客員部門）

受入教員 大浦教授

期間 3月1日～6月30日

・CHAN, Hing Ho
フランス国立科学センター研究員
20世紀以前東アジア国際往来者漢文資料の整理と研究

（文化連関研究客員部門）

受入教員 高田教授

期間 3月1日～8月31日

・安 承俊 韓国学中央研究院 専門委員
東アジア古文書学の比較研究

（文化生成研究客員部門）

受入教員 金教授

期間 7月7日～2006年1月6日

・BEN-ARI, Eyal
エルサレム・ヘブライ大学教授
自衛隊の文化人類学的研究

（文化連関研究客員部門）

受入教員 田中雅一教授

期間 9月7日～2006年3月1日

招へい外国人学者

・王 建軍 西北大学応用社会学部教授
清末中国留日学生と近代中国政治

受入教員 森教授

期間 2月2日～8月1日

・KLIMBURG-SALTER, Deborah
ウィーン大学芸術史研究所教授
5-9世紀アフガニスタンの考古美術的研究

受入教員 稲葉助教授

期間 3月15日～3月28日

・蔡 哲茂 中央研究院歴史語言研究所副研究員
京都大学人文科学研究所所蔵甲骨文研究

受入教員 高田教授

期間 4月10日～5月9日

・安 承俊 韓国学中央研究院 専門委員
東アジア古文書学の比較研究

受入教員 金教授

期間 4月15日～7月6日

・陳 金華
カナダ・プリティッシュコロンビア大学助教授
唐代仏教における法蔵の歴史的位置づけ

受入教員 船山助教授

期間 4月20日～6月8日

・池上 英子 ニュー・スクール大学大学院教授
祇園祭の歴史社会学的研究

受入教員 高木助教授

期間 5月27日～7月27日

・蔡 榮婷 国立中正大学中国文学系教授
唐宋時期禪宋詩偈の研究

受入教員 高田教授

期間 7月20日～8月5日

・黄 蘭翔 中央研究院台湾史研究所副研究員
六朝時代における仏教伽藍に示された中国的空間秩序

受入教員 田中淡教授

期間 8月1日～9月30日

・頼 惠敏 中央研究院近代史研究所研究員
中国清代の地方財政の研究

人 文 学 報

受入教員 岩井教授

期間 8月2日～9月1日

・外村 中

ヴェルツブルク大学東方文化研究所講師

中国を中心とする東アジア造園史の研究

受入教員 田中淡教授

期間 8月12日～9月10日

・金 海明 延世大学校文化大学教授

平安時代雅楽と唐詩の関係

受入教員 高田教授

期間 9月1日～2006年8月31日

・阿 風 中国社会科学院歴史研究所副研究員

中国明清時代における法律・裁判文書の研究

受入教員 岩井教授

期間 9月12日～12月10日

・PREGADIO, Fabrizio

スタンフォード大学宗教学部・代行助教授

道蔵輯要および内丹理論に関する研究

受入教員 麥谷教授

期間 10月15日～2006年2月12日

・李 匡悌 中央研究院歴史語言研究所副研究員

東アジアの環境と生業をめぐる人文情報学的研究

受入教員 岡村教授

期間 10月19日～11月18日

・陳 金華

カナダ・ブリティッシュコロンビア大学助教授

唐代舍利信仰の研究

受入教員 船山助教授

期間 10月20日～12月5日

・WANG, Ding

ベルリン・ブランデンブルク科学院非常勤研究員

中央アジア版刻史の研究

受入教員 高田教授

期間 11月3日～2006年11月2日

・GUMBRECHT, Cordula

ドイツ国立図書館東アジア部主任

吐魯番探検隊の研究—ドイツ隊と大谷隊

受入教員 高田教授

期間 11月3日～2006年11月2日

・桑 兵 中山大学歴史系教授

20世紀初頭の東アジアにおける人文情報

受入教員 石川助教授

期間 11月10日～11月19日

・LEE Pui Tak

香港大学アジア研究センター助教授

アジア・ネットワークのなかの近代日本・香港・

上海の金融と関係して

受入教員 籠谷助教授

期間 12月23日～2006年3月22日

外国人共同研究者

・梁 仁實

日本の視覚メディアにおける「朝鮮」表象

受入教員 水野教授

期間 4月1日～2006年3月31日

・劉 思妙 中華仏学研究所助理研究員

インド中観派のチャンドラキールティによる縁起
思想

受入教員 船山助教授

期間 7月12日～8月15日

・VOLKINSFELD, Sven

ミュンスター大学中国学研究所非常勤講師

Methodologies for computerized processing
of classical Chinese texts

受入教員 ウィッテルン助教授

期間 9月15日～11月15日

・鞏 文 中国社会科学院考古研究所助理研究員

3～6世紀の装身具からみた東アジアの文化交流

受入教員 岡村教授

期間 12月18日～2006年3月1日

外国人研究生

・NAM, Paul Sangwoon

植民地朝鮮における資本主義の展開

受入教員 水野教授

期間 4月1日～2006年3月31日

・SOLOMON, Deborah

1929年光州学生運動の研究

受入教員 水野教授

期間 7月1日～2006年6月30日

• KEET, Philomena

衣服と遊ぶ 日本の若者ファッション現象である
コスプレに見る周縁性, 創造力, アイデンティ
ティ

受入教員 田中雅一教授

期間 10月1日～2006年9月30日

• ODA, Ernani Shoití

在日ブラジル人と他の移民・マイノリティとの関
係に関する実証的研究

受入教員 竹沢教授

期間 10月1日～2006年3月31日

• 東 洪芬

中国北京にある家庭内暴力におけるジェンダー構
造

受入教員 田中雅一教授

期間 11月1日～2006年3月31日

• 廖 莉莉

儒学と現代人の行為の関連

受入教員 岩井教授

期間 11月1日～2006年3月31日

出版 物

紀要

人文学報 第90号(紀要第147冊)

2004年4月30日刊

人文学報 第91号(紀要第148冊)

2004年12月25日刊

人文学報 第92号(紀要第150冊)

2005年3月31日刊

東方学報 第77冊(紀要第149冊)

2005年3月10日刊

東洋学文献類目 2002年度

2005年3月25日刊

ZINBVN Number 37

2005年3月刊

研究報告その他

『三教交渉論叢』

麥谷 邦夫編

2005年3月23日刊

『魏晉石刻資料選注』(三國時代の出土文字資料
班)

井波 陵一著

2005年3月30日発行

所報

「人文」第52号

2005年6月30日刊

京都大学21世紀COEプログラム

東アジア世界の人文情報学研究拠点

漢字文化の全き継承と発展のために

• 日中共同シンポジウム「漢字文献資料庫の新技
術」2005年1月22日(土)

中国・北京 湖北第厦

拠点リーダー 高田 時雄 2005年7月発行

• オープン・フォーラム「漢字文化の今 2」報告
書 2005年2月13日(日)

— 東アジアの人名・地名と漢字 —

京都新聞文化ホール

拠点リーダー 高田 時雄 2005年8月発行